

Book Review

口腔機能の維持・向上による 全身状態改善のための オーラルケア・マネジメント 実践マニュアル

別所和久 監修/奥田聖介・武井典子 編著

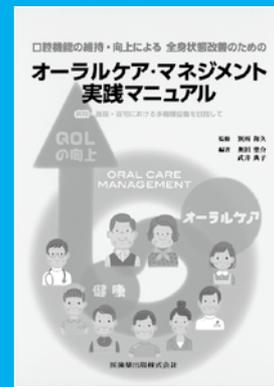


Reviewer

森戸光彦

(一般社団法人日本老年歯科医学会理事長)

B5判, 112頁
定価 2,940円
(本体 2,800円+税 5%)
医歯薬出版刊



2010年末には老年人口割合が25%になると予想され、また、要支援者は約130万人、要介護者は約370万人で、合計すると約500万人が要介護(要支援)の認定を受けている。残存歯数は65~69歳で約18本、80歳代でも10本近くになっている。健康保険の恩恵を受けている50歳代半ば以降の人たちは、残存歯数が増加すると見込まれている。

口腔環境を適切に守らなければ、たちまちデンタルプラークの増加、微生物叢の悪化、唾液分泌量の低下、舌や口腔周囲筋の機能低下、代謝物の堆積、食物残渣の長期貯溜などをきたす。そこに「歯」がたくさん残っていたとしたら、齲蝕や、齲蝕による歯の崩壊、歯肉炎や歯周病に冒されることは十分に想像できる。

崩壊した歯は、ときには「凶器」となって口腔内の軟組織を傷つけ、大きな炎症やさらなる機能低下を招くこともある。一方で、口腔内微生物の病巣感染による誤嚥性肺炎やさまざまな全身疾患の危険性が一層増大することは、周知のことである。口腔機能の維

持向上と管理は生命予後をも左右すると思われる。

高齢者医療を考えると、医療と介護の垣根を越えた「多職種連携」による「シームレス医療」の展開が求められている。

そのような背景のなか、京丹後市立久美浜病院では、多職種連携による「オーラルケア・マネジメント」の実践により、肺炎による患者の入院のべ日数を65%減少、誤嚥性肺炎による年間医療費を72%減少という驚異的な成果をあげている。本書は、その成果を生み出したオーラルケア・マネジメントの実践例を具体的に紹介している。

全身状態の維持・改善のためのオーラルケアは、口腔清掃のみではなく摂食・嚥下機能訓練を併せて行うことの重要性が強調されている。本書では、「オーラルケア」を以下のように定義している。すなわち狭義には「口腔清掃による気道感染予防と摂食・嚥下機能の維持・向上による口腔機能の向上」であり、広義には「気道感染予防・口腔機能の向上により、低栄養を予防

し、食べる楽しみを向上し、体力・意欲・行動力の向上、生きる楽しみ・QOLの向上を目指すもの」である。ここでの「マネジメント」とは、「病院・施設・在宅における患者や高齢者にかかわるさまざまな職種が連携し、それぞれの専門性を発揮して、シームレスで有効なオーラルケアを実践できるよう管理・運用すること」と定義している。

病院、施設、在宅などすべての場において、全身状態の維持・向上のためにはオーラルケアが重要である。歯科医師・歯科衛生士だけでなく、看護師や介護士なども積極的に参加するシステム(マネジメント手法)が提案されている。その意味で、本書は有効なオーラルケア法が提案されており、多職種連携の実習書としての役割を担っている。

オーラルケア・マネジメントを各病院、施設で導入するための実践の書として、また、歯科医師および歯科衛生士が多職種協働の医療現場に一步踏み出すための必読の書として、一読することをお薦めする。